

子宮体癌 術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法における、PSM(Propensity score matching)を用いたTEC療法(Paclitaxel+ Epirubicin+ Carboplatin)とTC療法(Paclitaxel+ Carboplatin)の予後に関する研究

1. 研究の対象

過去に大阪大学産婦人科及び大阪国際がんセンター、大阪警察病院、市立伊丹病院などの阪大産婦人科関連病院で子宮体癌手術により再発中・高リスク群(類内膜腺癌 G1/G2 かつ筋層浸潤 1/2 以上、類内膜腺癌 G3、漿液性癌・明細胞癌、子宮頸部間質浸潤または腔壁浸潤を有する場合、付属器や漿膜・基靭帯への腫瘍進展がみられた場合、脈管侵襲を伴う場合、リンパ節転移陽性の場合、膀胱や直腸浸潤・腹腔内播種や遠隔転移を有する場合)と診断され、術後化学療法を行った方

2. 研究目的・方法

子宮体癌の術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法において、PSM(Propensity score matching)を用いて交絡因子を調節しTEC療法(Paclitaxel+ Epirubicin+ Carboplatin)とTC療法(Paclitaxel+ Carboplatin)の予後比較を行います。子宮体癌術後再発リスク群に対して、より効果的に予後改善に寄与しうる化学療法レジメンを解明することが目的です。

全体で約150例以上の症例を集積し、それぞれの症例の背景因子(病歴や治療歴)や手術関連因子、病理組織結果、副作用などの発生状況、生存や再発の有無、カルテ番号)を集積し解析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、手術関連因子、病理組織結果、副作用などの発生状況、生存や再発の有無、カルテ番号 等

4. 外部への試料・情報の提供

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

大阪警察病院	香山 晋輔
大阪国際がんセンター	上浦祥司
市立伊丹病院	雨宮京夏 ほか
市立芦屋病院	宮田 明未
地域医療機能推進機構 (JCHO)大阪病院	筒井 建紀
大阪急性期・総合医療センター	竹村 昌彦
大阪労災病院	志岐 保彦

大手前病院	中辻 友希
市立貝塚病院	横井 猛
関西ろうさい病院	伊藤 公彦
済生会中津病院	富家 真理
堺市立総合医療センター	山本 敏也
市立吹田市民病院	大西 洋子
市立豊中病院	辻江 智子
県立西宮病院	増原 完治
日本生命病院	橋本 奈美子
ベルランド総合病院	宮武 崇
箕面市立病院	足立 和繁

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院の照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

564-8567 大阪府吹田市岸部新町 5 番 7 号

06-6387-3311

当院の研究責任者：

産婦人科 大西 洋子